

青森空港活性化検討委員会

第二次青森空港活性化ビジョンの一部変更について

令和5年3月6日

青森空港活性化検討委員会事務局

目次

1. 第二次ビジョン一部変更案
2. 直近の旅客数の推移
3. 青森空港を取り巻く直近の状況
4. 令和5年度以降の検討事項

1. 第二次ビジョン一部変更案

・主な変更内容

ビジョンの期間の延長

当初：平成30（2018）年度～平成34（2022）年度



変更：平成30（2018）年度～令和7（2025）年度

※今回、新型コロナの影響により活動できなかった3年間分を延長

期間延長に伴う「青森空港の課題」の変更

4.2 増加する訪日客の取り込み

当初

（前略）本ビジョンの期間中に開催される東京オリンピック、パラリンピック（2020年）が近づくにつれ（後略）



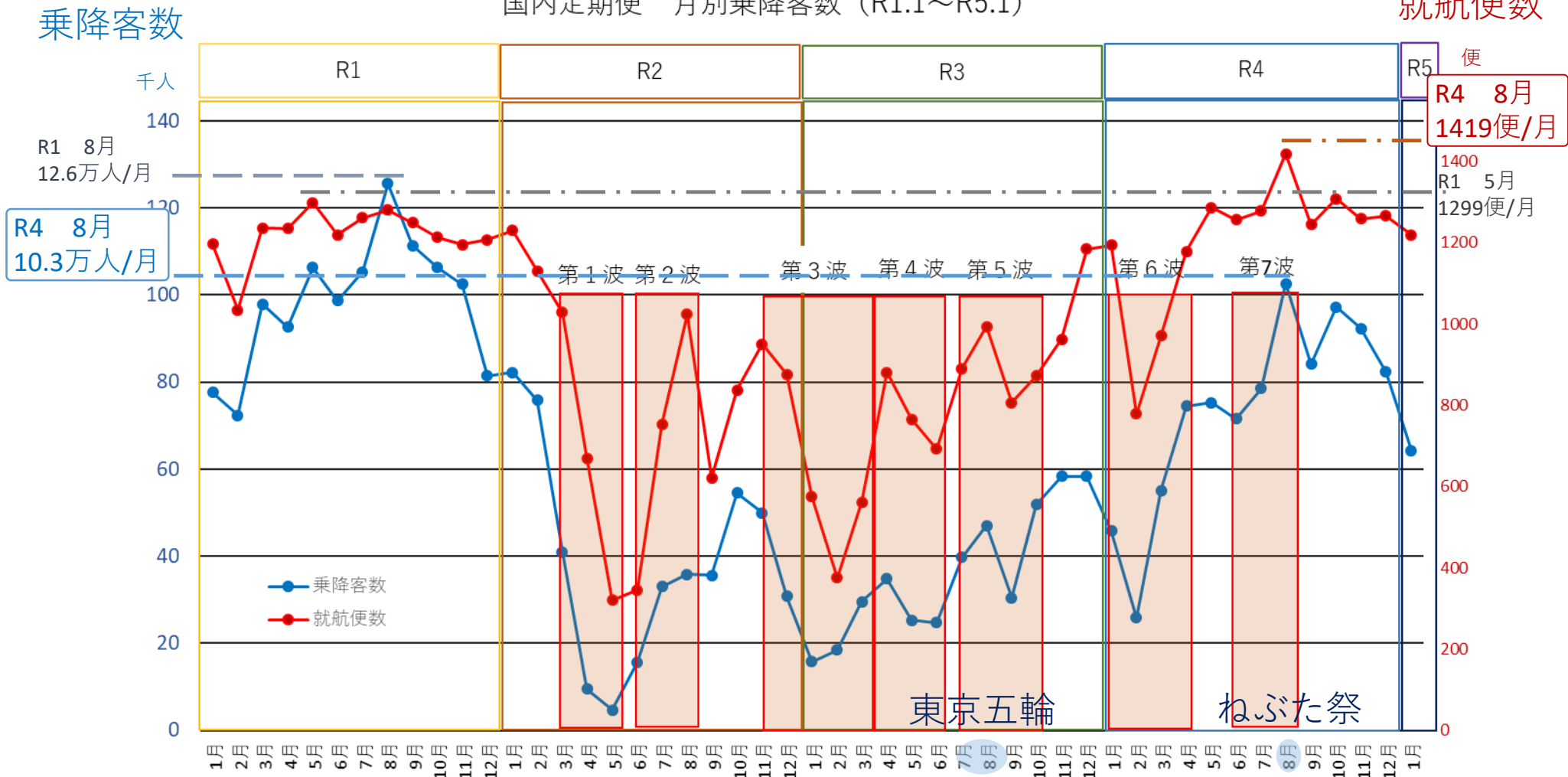
変更

（前略）本ビジョンの期間中に開催される東京オリンピック、パラリンピック（2021年）及び大阪・関西万博（2025年）が近づくにつれ（後略）

※訪日客需要が高まる要素を期間の延長に合わせて追加
（大阪・関西万博開催期間 2025年4月13日～10月13日）

2. 直近の旅客数の推移

国内定期便 月別乗降客数 (R1.1~R5.1)



- ・利用者数の回復傾向が見られ、就航便数に限っては感染拡大前を超える水準。
- ・新型コロナ流行後、最も利用者の多い令和4年8月では10.3万人である。（令和元年最多の8月の約8割に相当）

概ねコロナ前の水準へ回復

青森県HP 青森空港管理事務所
 青森空港の利用実績
 定期便利用実績（月別）より集計

3. 青森空港を取り巻く直近の状況

青森空港の状況 (3月6日時点)

○国際線再開に向けた調整

- ・12月末までに4度の情報共有会議を実施

○大韓航空

- ・1月はインバウンドチャーターを、1/21・24・27に運航
- ・2月は2Wayチャーターを、2/23・26に運航
- ・3月はインバウンドチャーターを、3/9・12・15・18・21・24に運航予定

○エバー航空

- ・4月にインバウンドチャーターを、4/13から4/27にかけて、15日間毎日運航を予定

国際線再開に向けた動きが加速

○JAL

- ・青森—大阪（伊丹）便の増便 3月の夏ダイヤから 3往復/日→4往復/日へ（定期便としては初）

○ANA

- ・青森—大阪（伊丹）便の機材大型化 7/1～8/1の期間（74名→166名）

国内線も需要の伸びが期待される

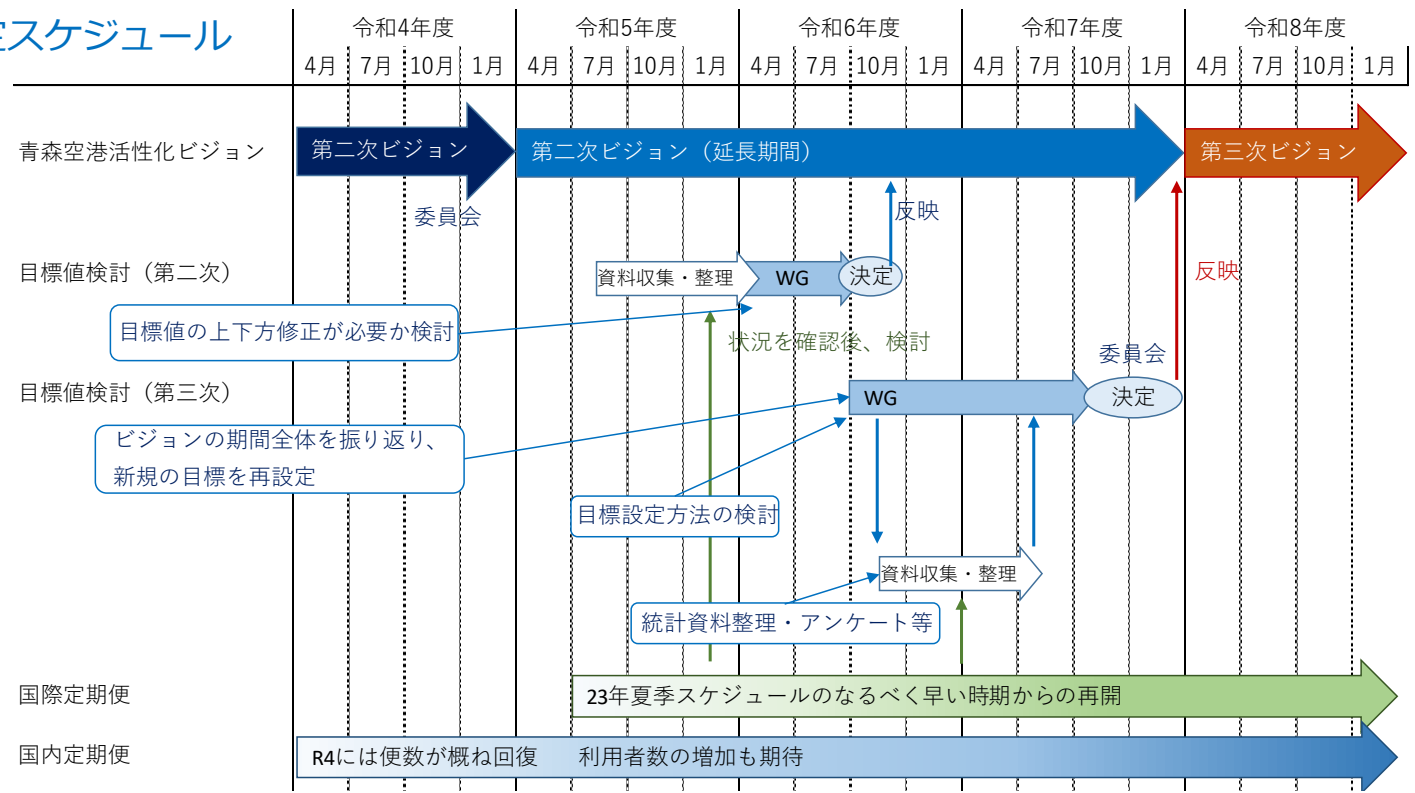
4. 令和5年度以降の検討事項

目標値の見直し

- ・現時点では、国際線定期便が再開しておらず、旅客数のデータがないため、今回の委員会内では目標値の見直しをしない。
- ・旅客数等の資料が集まった段階で目標値の見直しについて検討したい。

現在の目標値：利用客数 年間130万人（第二次ビジョン終了年度※）
 ※当初：平成34年度 一部変更案：令和7年度

想定スケジュール



4. 令和5年度以降の検討事項

取組の見直し

- ・ 新型コロナウイルスの流行以前と比較すると、旅行需要や働き方など、人流・物流に関する条件・需要等にも変化が生じている。
- ・ 就航路線についても、第二次ビジョン策定当時とは変化がある。
- ・ 脱炭素化や空港職員の労働環境等の新たな課題が見えつつある。

以上を踏まえた取組内容の見直しを実施したい。

